

首夏二首

布士 廼舍

咲くと見し花はあとなく春暮れて

繁る青葉は夢かと思ふ

花散りぬ青葉繁りぬ今更に

世の常なさの風ぞ身にしむ

常夏

同人

常夏とさくからにこそ物樂けれ

花の色香は飽かすやはある

夢に子規を聞く

同人

一聲はたゞうたゝねの夢にして

はしるなからに月かたふきぬ

藤衣

鶯 水

なき母君の植はたまひし

花を見てよめる

兄

おほしてし花見るたびにいとしく

なき母君のしたはしきかな

おなし君の植え玉ひし藤

の花を見てよめる

妹

おほしつる君しまさねは中々に

おはれをそふる藤波の花

母君のうせ玉ひけるかり

古里をたち都へのほると

てよめる

兄

いくたびかためしはあれと故里を

わけて今霄のさりかたきかな

兄君の今年大學を卒業す

るといふに母君のうせ玉

ひければよめる

妹